

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	主体的に学び合う力
	・至誠中学校区 3 校で義務教育修了段階の子どもの姿を共有し、教育活動の充実を図る。 ・小規模校の特色を生かした教育活動を推進する。 ・一人一人の個性を尊重し、多様性社会の担い手の育成に向けた取組を推進する。	・確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。 ・積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。 ・自分で考えて行動することが苦手である。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができる子ども
			中学校区として統一した取組等	○授業づくり 単元で『身につけるスキル』を明確にした授業を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

III 自 校

ミッション

どんな社会の変化も肯定的にとらえ、他者と協働しながら未来社会で生きる子どもを育成する学校

学校教育目標

夢をもち 社会で活躍できる児童の育成

現 状

<児童生徒>
・「自分の考えをもって学ぶことができた」の肯定的評価は、83.9%
・「自分の考えを深めることができた」の肯定的評価は、78.2%
・国語・算数の単元末テストの40%未満の児童は、国語（知・技）が2.4%、（思・判・表）が1.2%、算数（知・技）が1.2%、（思・判・表）が4.7%

・自分達で計画・実践する学習活動や学校行事等を実施している。

<授業>
・教科部会に分かれ、言葉や数に着目した協働的な学びや考えをもつための手立てについて対話を行っている。学習活動の流れに、振り返りをする時間を確保し、児童が次につながる振り返りができるようにしている。
・授業づくりの視点を具体的に示し、授業実践をしていくことに課題がある。

育成する力 資質・能力		めざす子ども像			
		1 自分から進んで 取組む力（主体 性）	2 友達と協力す る力（協働性）	3 目標に向かって やり遂げる力(や りきる力)	4 みんなのことを考 えみんなのために働 く力（社会貢献力）
1・2年	自力解決や協働解決の素地が育っている 理由をつけて自己の考えを表現できる	自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習する。	自分の意見やアイディアを友達に納得してもらえるように説明し合う。	自分でやると決めたことを最後までやり遂げる。	相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。
3・4年	多様な主体的・協働的な活動ができる 自己の考えを活動を伴って検証できる リフレクション	グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出す。	グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組む。	目標に向かって諦めずに挑戦する。協力して活動する。	公共の利益のことを考えようとする。
5・6年	自己決定を含む主体的・協働的な活動ができる リフレクションを通して自己の考えを発展できる	グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表する。	友達の良いところやアドバイスを生かし合って、より良い考えや作品を作る。	自分で目標を立て、目標達成に向けて主体的に行動している。	人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じている。
研究	テーマ	自分の考えをもち、他者と協働しながら解決しようとする児童の育成			
	内容等	児童が自ら課題を見つけ、自分の思いや考えをもち、他者と協働しながら解決していく。			
めざす授業の姿		○課題解決の手がかりになる見方・考え方を使って自分の考えをもつ主体的な学びが行われる授業。 ○言葉や数などに着目した対話による協働的な学びが行われる授業。			

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力を入 れた 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れた 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	学びに向かい、 学び続ける児童 の育成	★	継 続	児童の実態をもと にした指導方法を 工夫し、学力の向 上を図る。	・教科部会を設定し、児童が 自分の考えをもつための手 立てや、協働的に学び合うこ とができる授業づくりを考 える。	・国語、算数の単元末テスト (思・判・表)、福山市学 力定着状況調査(4・5年)、 標準学力調査(2・3年) で40%未満の児童を 15%以下にする。 ・児童アンケート「①自分の 考えをもって学ぶことが できた」「②自分の考えを 深めることができた」の2 項目で肯定的評価を80% 以上にする。	□国語、算数の単元末テ スト(思・判・表)、福山 市学力定着状況調査(4・ 5年)、標準学力調査(2・ 3年)で40%未満の児童 は、15.1%だった。 □自分の考えをもつため に、課題解決のための見 通しをもたせ、言葉や数 に着目した指導を行っ た。児童アンケートの肯 定的評価は、①89.3%、 ②85.3%だった。	3	3	・ノート指導を全学年 で統一し、自分の考え を書く時間を確保し、 考えを伝え合って思 考する力を付ける。 ・振り返りの視点を児 童に意識させること で、自分が何を学んだ のか、理解できたかど うか考えることができ るようにする。					
					・チャレンジタイムの充実 を図る。 ・時間を決めて家庭学習に 取り組む。	・国語、算数の単元末テスト (知・技)で40%未満の 児童を10%以下にする。 ・読書貯金の目標達成率を 70%以上にする。 ・児童アンケート「自分で決 めた家庭学習の時間を守 ることができた」の肯定的 評価80%以上にする。	□チャレンジタイムを見 直し、漢字・読書・計算に 計画的に取り組んだ。国 語、算数の単元末テスト (知・技)で40%未満の 児童は、2.1%だった。 □委員会を中心に読書貯 金の達成者の掲示や、読 書活動の推進をした。8 月現在の達成率は 20.5%だった。 □家庭学習の時間を決め て取り組んだ。児童アン ケートの肯定的評価は 82.7%だった。	3	3	・引き続き、チャレン ジタイムに計画的に 取り組む。 ・読書活動について保 護者にも協力を呼び かけ、家庭でも読書を 進められるようにす る。また、児童が読み たい本のリクエスト を募集した選書を行 うことで、読書意欲を 高める。 ・ミニテストと連携し た家庭学習になるよ う計画して目的意識 をもって取り組める ようにする。					
3	自他と学校、地 域を大切にする 児童の育成		継 続	児童主体の学習活 動や学校行事等を 推進し、児童の自 己肯定感や郷土愛 を育成する。	・山南スポーツフェスティ バルや山南フェスティ バルなど、行事への取り組み 過程や終了後に互いのよ さや努力を認める場を設 定する。	・児童アンケートの自己肯 定感に関する「自分によ いところがある」「友達 のよさを見つけられた」 の2項目で肯定的評価を 80%以上にする。	□ローン会や遠足、山南ス ポーツフェスティバル、 山南夏祭りなど児童が企 画した行事等を実施し た。 □児童の肯定的評価は 「自分によいところがあ る」「友達のよさを見つ けられた」の2項目で 84%であった。	3	3	・今後も、児童主体で企 画・実行していく行事等 を推進していき、自分や 互いのよさに目を向けた 振り返りや相互評価を行 い、自己肯定感の向上を 図る。 ・教職員も、教育活動全体 を通して、児童のよさに 目を向けた評価を行う。					
					・生活科や総合的な学習の 時間等で地域の人、もの、 ことを積極的に活用し、地 域のよさに触れる機会や 場を設定する。	・教職員アンケート「地域 の人や課題などに児童が 直接触れる機会を持てて いる」児童アンケート 「山南が好きである」の 2項目で肯定的評価を 85%にする。	□地域の人と関わる学習 を2～6年(2年:かし わもちづくり、3年:竹 の置物づくり、4年:福 祉体験、5年:ぶどうジ ャムづくり、6年:平家 谷学習)で実施すること ができた。 □教職員の肯定的評価は 「地域の人や課題などに 児童が直接触れる機会を 持てている」100%、 児童の肯定的評価は「山 南が好きである」 89.3%であった。	3	4	・各学年の学習内容に応 じて継続的、計画的に地 域人材を活用した学習を 行い、全学年、地域と関 わるふさと学習を推進 する。					

		継続	自己の体力や生活についての課題を知り、よりよい自分を目指して取り組む。	- 生活習慣について目標を設定して取り組み、自己評価する。 - 体育科での基礎体力向上の取り組みや体力づくり、外遊びを推進し、体力の向上を図る。	- 生活ふり返り週間で就寝時間とメディアの2項目において、児童の肯定的評価80%以上にする。 「運動することは好き」や「体育の授業は楽しい」において、児童の肯定的評価を90%以上にする。	□運動・生活についての自己目標を設定する際には家庭の協力も得られるよう、保健便り等で家庭にも周知して取り組んだ。達成率は、「就寝時間」69.2%、「メディア」78.2%であった。 □場の設定の工夫や、主運動に関わるゲーム性を取り入れた準備運動を計画的に実施し、授業改善につなげた。運動や体育の授業に関する児童の肯定的評価は 78.7%、89.3%であった。	3	3	- 生活ふり返りの結果をもとに、中学校区での統一した取組として実施し、保健便りに家族や児童のコメントを掲載するなどして、実践意欲につなげる。 - 運動の特性に合わせた準備運動や感覚づくり運動を継続して実施し、運動時間を保障するとともに楽しみながら体力向上に向けた取組を行う。					
3	意欲、やりがい を發揮できる教育環境の整備	一部変更	働き方改革を進め、教職員が個性を發揮しながら教材研究や児童と向き合う時間を確保する。	暮会や研修内容等をデジタル化し、効率化を図るとともに、スケジュール管理により見通しをもった業務を行う。	『子どもが自ら学ぶ』授業づくりにあてる時間がある。」の教職員評価を前年度(71.4%)以上にする。 「本音を気兼ねなく発言でき、自分の個性が認められているという実感がある。」の教職員評価を前年度(85.7%)以上にする。	□教職員の肯定的評価は87.5%であった。暮会や研修内容をデジタル化したり、会議を減らしたり、時間を短くしたりすることで、授業づくりにあてる時間を生み出すことができた。 □教職員の肯定的評価は87.5%であった。職員同士の個性を尊重し、否定ではなく共感する姿勢をそれぞれが持つことで、安心して自分らしくいられる場所になっている。	3	3	- 引き続きデジタル化を推進していくこと、仕事を「見える化」し、優先順位をつけて仕事をするすることで、時間を生み出すようにする。 - 教職員同士、日ごろからコミュニケーションを密にし、思いを共有し合い、認め合うことで、いろいろなことに自信をもって挑戦できるようにする。					

目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。